

新県立中央図書館整備事業設計業務委託に係る公募型プロポーザル
第1回審査委員会 議事録

日 時：令和3年9月1日（水）15:30～17:30

場 所：県庁西館8階教育委員会第3会議室（事務局）※w e b会議にて実施

委 員：長谷川委員、北山委員、貝島委員、古瀬委員、岡本委員、是住委員、難波委員
（欠席、千葉委員）

事務局：社会教育課新図書館整備室

事業アドバイザー：小野田教授

発注支援事業者：明豊ファシリティワークス(株)（以下、明豊FW）

- 内容：1 教育長挨拶
2 委員紹介
3 計画概要、発注方針説明（事務局）
4 プロポーザル実施要綱、審査委員会設置要綱説明（事務局）
5 委員長・副委員長の選出
6 議事（実施要領、評価要領について）
7 今後の予定（事務局）

要旨

■委員長・副委員長の選出

互選の結果、委員長に長谷川委員、副委員長は、委員長の指名により北山委員が選出された。

■議事（実施要領、評価要領について）

副委員長：コストコントロール能力などの審査が難しいが、審査をサポートする技術委員は配置しないのか。

事務局：発注支援事業者として、明豊FWに積算などのチェックを依頼している。

小野田教授：コストをこの段階で精査するのは、确实性に課題が残り、簡単ではない。それでも発注支援事業者を付けるのは、参加資格のハードルが低く、参加者数が増えることが予想されるため、コストに関する情報を少しでも増やして対応力を上げようというもの。

事務局：審査をサポートできるよう、比較表の作成を考えている。この方法でコストコントロール能力を図ることは難しいが、コストコントロール能力を重視していることをメッセージとして発信をしていくことが大切だと考えている。

委員長：私は今日までの経過を知らない上で質問します。小野田教授と明豊FWは、

プロポーザルの内容を相談している人で、チェックする人ではないのでは。

事務局：発注資料の作成支援や、提案書内容の精査や妥当性の評価などをお願いしている。

委員長：明豊FWが発注支援事業者として入っている事は公開するのか。

事務局：プロポーザルの関係者になるので、公開します。県ではプロポーザルのノウハウがないので、資料作成や市場動向の把握などを支援してもらっている。

委員長：コストなどの難しいことを支援してくれる人はいるか。

難波委員：特殊な工法がとられている場合、そのコストが確定できない。これまでの県のプロポーザル審査でコストが合わない建築も見逃していたことがある。今回、県の建築部門を統合した交通基盤部建築管理局がしっかり見る体制としている。普通の設計であれば、ある程度分かる。特殊な工法や材料についても、県である程度評価できると思っている。

岡本委員：現在は万博とウッドショックがエクスキューズの2大テーマ。このエクスキューズを許すと、コストコントロールができない。考え得る将来のリスクについて、どのように把握して、コストコントロールするのかを提案させてはどうか。コストアップを災害などの理由にせず、予防的にどのように考えることができるかを伺ってはどうか。

事務局：積算根拠に加えて、設計中のコスト変動要因・リスクに対する考え方も入れていきたい。

副委員長：2次審査の概算工事費内訳書は図面と共に審査するのは大変な作業だが、どのような審査をすることになるか。

小野田教授：事務局、明豊FWでチェックした結果を委員会に示す。

事務局：拾いまでは求めず、科目別内訳を事務局で確認して、一覧表などで示すことを考えている。

委員長：1次審査で審査委員が議論した結果、1次通過者が5者以上でもよいか。

事務局：5者程度で考えている。2次提案書の提出者（1位以外）には50万円の報償金を準備している。予算の都合もあり、5者程度としている。

岡本委員：可能性のない提案も含めて、無理に5者を選ぶことは提案者に失礼。提案次第で3者程度になってもよいか。

委員長：5者より少ないイメージはない。3者程度だと大切な提案を見落とす可能性がある。

小野田教授：残す事業者が多い方がリスクは減るので5者程度は確保しておきたい。数の制約条件は審査時間と予算で、時間的には7～8者程度が限界かと考えている。

委員長：「程度」にしておいてください。

貝島委員：工期などのチェックをするのか。いい案を残すために1次はポジティブチェ

ックを行い、問題があれば指摘し、2次で回答させてはどうか。

事務局：工期チェックも事務局で行い委員会に資料を示す。1次審査通過者には付帯質疑を行い、2次提案をより良い案にさせていただくというストーリーを考えている。

岡本委員：提案者名を公表するのか。特に2次審査時について。

事務局：事務局としては匿名での審査を考えている。

岡本委員：公開したほうがよい。匿名にすることで無用な駆け引きが発生する。よいプレゼンをする上でA者、B者と読み替えるのは手間になる。本質的なところに体力をつかってもらいたい。

委員長：公開してマイナスなことはあるか。

事務局：特定の誰かを選ぶのではなく、提案書を作成した方を選定していただきたいため匿名で考えている。

委員長：プロポは人を選ぶと国が考えているが、そのため諸外国のコンペに比べると、作品のレベルが上がらない。

古瀬委員：論文などはダブルブラインドというやり方はあるが、国際会議の速報などで実は誰が投稿したかわかる。匿名といつつも、実際は相手をわかってしまうので、匿名はあまり意味がない。

難波委員：プレゼンテーションで顔がわかる。あまり非公開にする意味はない。

委員長：まったく知らない新しい建築家である可能性もある。若手のスタッフを送る可能性もある。本人がくるとは限らない。顔見ればわかるというのは100%ではない。

小野田教授：「名前を出すのが不公平」という意見が関係方面から出ることも予想され、取引コストを減らすために匿名がデフォルトかと考えていた。但し、新しい静岡方式を打ち出すのであれば、名前を出しながらもフェアに議論してまずと主張することも効果は高い。

委員長：静岡方式として出すわけだから徹底してはどうか。

貝島委員：2次が公開の場合は顔が分かるので、1次審査通過者はweb等に名前入りで発表されることが一般的にはある。それとも会場に行って、初めて通過者がわかるのか。

副委員長：1次の時点で公表するのは危険。駆け引きがある可能性もある。2次の時に初めて会場でわかるほうがよいのではないか。

委員長：今回は公開プレゼンなので、県民が見に来る。ロビーに飾ってあることもある。写真をとって、他者のよい案をプレゼンで自分の案のように話す人もいる。慎重に考えてほしい。

小野田教授：当日までブラインドで、プレゼン当日の公表でどうか。

事務局：そのように行いたい。

難波委員：結果の発表の仕方について、今回は1位と次点を発表して、3～5位は非公表としているが、3～5位になった応募者の気持ちはどうか。

副委員長：ファイナルに残ることは名誉なので、公表することでよいのではないか。

委員長：1次審査通過者は、公表としましょう。

岡本委員：作品集の作成も行うということなので、大変な名誉であり、公表された方がよい。ぜひ、この作品集をデジタル版で長く残してほしい。

事務局：作品集はデジタル版公開していきたい。

小野田教授：実施要領にデジタル化の文言も入れておいたほうがよい。

委員長：実施要領と評価要領について、修正したものを各委員に送付してください。

■今後の予定

貝島委員：技術提案書の事前送付はなしとあるが、1～2日前に欲しい。

副委員長：事前に読み込んでおきたいので、事前に郵送してもらいたい。

委員長：貝島委員と同じタイミングで、各委員に一斉に送ることではないか。

事務局：審査日の1～2日前に送付する。

岡本委員：10月1日の公告で、審査委員名は開示されるか。

事務局：実施要領に明示しており、開示される。

岡本委員：審査委員への個別接触の禁止について記載をしているか。

事務局：10月1日に公告され、それ以降の審査委員との接触は失格となる。

貝島委員：公募の段階でなるべく多くに告知できるとよい。建設通信新聞など多くの人が読んでいる媒体、若手であれば若手が見るような媒体などに告知してほしい。

委員長：最終案は建築雑誌に発表してほしい。

事務局：公募の10月1日の10日くらい前にはプレスリリースで「公募を10月1日」という情報だけは出す。ただし、プロポーザルの内容や委員の名前については公募に合わせる。他の媒体にも情報を出していく。

小野田教授：プレスリリースに載せるため、「静岡型プロポーザル方式」をしっかりと記載できるようにしたほうがよい。

貝島委員：応募者には既存図書館の説明会をするか。

事務局：実施する方向で考えている。コロナによっては結果的に動画配信になる可能性もある。

委員長：既存図書館を見ておきたい。

事務局：審査員の皆さんには、緊急事態宣言が明けたら視察の機会を設けたいと考えている。